

平成 18 年 5 月 25 日

各 位

会社名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社

代表者名 代表取締役社長 名原 健治

(JASDAQ コード番号 3779)

問合せ先 業務管理統括本部兼 I R 本部

部長 福園 雅士

(電話 03-3507-6350)

連結業績予想に関する考え方および決算発表の方法、
並びに平成 18 年 3 月期通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

今般、当社は連結業績予想に関する考え方に誤りがありましたので、変更してお知らせいたしますと共に、決算発表の方法、並びに平成 17 年 11 月 14 日に公表しました平成 18 年 3 月期の通期(連結・個別)業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当社の連結業績予想に関する考え方の変更

当社は、平成 17 年 10 月 3 日付で、株式会社エスコムの株式移転により、完全親会社として設立した会社であります。設立より現在に至るまで、以下の通期連結業績予想に関するお知らせを行っております。

平成 17 年 11 月 14 日付「平成 18 年 3 月期 業績予想に関するお知らせ」

平成 17 年 11 月 22 日付「平成 18 年 3 月期 中間決算短信(連結)」

上記の平成 18 年 3 月期中間決算短信(連結)は、提出会社ジェイ・エスコムホールディングス株式会社の完全子会社である株式会社エスコムの中間決算短信として公表したものであります。

平成 18 年 2 月 17 日付「平成 18 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況(連結)」

当社では、上記の連結業績予想を公表するにあたり、連結業績予想の期間につきまして、提出会社の会計期間と同一の会計期間である平成 17 年 10 月 3 日から平成 18 年 3 月 31 日までとして公表をしておりますが、公表している連結業績予想には、連結子会社の平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までの業績を考慮して公表しておりました。

今般、当社はこの誤りに気付いたことから今後の対応方針を検討した結果、平成 18 年 4 月 1 日以降開始する事業年度から実施される、企業結合に係る会計基準 4. 持分の結合に会計処理(2) 企業結合年度の連結財務諸表に準じて、期首に企業結合が行われたとみなす会計処理を採用いたしました。

したがって、当社としましては、ジェイ・エスコムホールディングス株式会社が平成 17 年 4 月 1 日に設立したものとみなし、連結業績予想期間を変更し、平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日として、公表することにいたしましたのでお知らせ致します。

なお、変更前および変更後の期間は次のとおりであります。

(変更前) 平成 17 年 10 月 3 日から平成 18 年 3 月 31 日

(変更後) 平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日

また、個別業績予想につきましては、従前のとおり、平成 17 年 10 月 3 日から平成 18 年 3 月 31 日までといたしております。

2. 決算発表の方法に関する変更

上記の事由により、後日に公表いたします「平成 18 年 3 月期 決算短信 (連結)」につきましては、対象期間を平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までとするみなし期間での公表を行い、当該決算短信に添付する「連結財務諸表」「セグメント情報」につきましても連結会計年度の期間を平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日として公表することにいたしましたのでお知らせ致します。

3. 平成 18 年 3 月期 連結業績予想の修正 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,022	340	474
今回修正予想 (B)	808	516	690
増減額 (B - A)	214	176	216
増減率 (%)	20.9	-	-

(注) 前回発表予想および今回修正予想には、連結子会社の平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日までの数値が含まれております。

4. 平成 18 年 3 月期 個別業績予想の修正 (平成 17 年 10 月 3 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	18	52	52
今回修正予想 (B)	12	79	80
増減額 (B - A)	6	27	28
増減率 (%)	33.3	-	-

5. 修正理由

(1) 連結業績予想の修正等

売上高につきましては、平成 18 年度より中学校教科書の改訂が実施される事から、平成 14 年度版教科書に準拠した教材販売の最終年度というライフサイクルが一時的に縮小する事による買い控え事情があった事に加え、平成 18 年度版商品として販売をスタートした新教材が商品名の変更等の要因により予想を下回った結果、当初の計画を下回る見込みです。

経常損益につきましては、売上高の減少に伴う粗利益の減少、また、原価として毎月償却計上していた前払費用を当期末に一括償却したことにより当初計画を下回る見込みです。

当期純損益につきましては、(株)エスコムの 100%子会社である(株)インストラクティブー所有の資産の一部を処分したことによる除却損 34 百万円、および取引先との取引保証契約に基づき将来発生する可能性のある偶発損失に備えるため、当社負担見込額 6 百万円を期末に引当計上したことなどから特別損失が当初計画を上回る見込みです。

(2) 個別業績予想の修正等

売上高につきましては、当初予定していた子会社からのコンサルタントフィーの見直しを行った事により修正いたしました。

経常損益につきましては、新株発行費用の発生が予想を上回ったものによります。

当期純損益につきましては、経常損益の修正によるものです。

上記予想につきましては、発表日現在のデータに基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上